

山岳クラブ／グーテンターク（ドイツ語 こんにちは）

# 月報 やまふみ



No.211 平成25年8月4日発行 山踏み

会 長 / MT

事務局長 / TK

ホームページ / <http://guten-nagano.com/>

編 集 / ST KK UR

印 刷 / 中央プリント(株)

(夏の花 衣笠草)



## 目次

山行報告・  
新刊紹介・  
編集後記

## 7月13日(土)—14日(日) 釜の沢東俣(個人山行)

CL S谷 T井 Y本 H本

行程 一日目 8:00 西沢溪谷駐車場—9:00—11:00 山の神—11:45 乙女の滝—13:30 魚止の滝—15:30 幕営地

二日目 7:00 幕営地—12:30 釜の沢東俣源流—13:30 甲武信小屋—17:30 西沢溪谷駐車場

天気 曇り—一時小雨

前回のナメラ沢に引き続いてレベルアップを目的に釜の沢東俣を遡行してきた。釜の沢東俣は、西沢溪谷から甲武信ヶ岳の山頂近くまで標高差1,300mをつきあげる沢。太平洋に流れ込む富士川の上流笛吹川の源流にあたる。

西沢溪谷駐車場に午前8時に集合、まずは1時間ほど西沢溪谷遊歩道を歩き、吊り橋を渡った所で入渓。そこから小さな祠(山の神)までは高巻き道を歩く。途中にある法螺貝の滝はエメラルドグリーンの淵を讚えて素晴らしく綺麗だった。山の神から本格的な遡行の開始。鶏冠山を縫うように流れる溪谷は淵という淵がエメラルドグリーンに輝き、楽しい遡行ができた。また両岸から流れ落ちてくる「乙女の滝」「東のナメラ沢の滝」は見事なナメを形成しており迫力があつた。途中にある淵をへ



つろうとしたところ、足が滑ってまったく前に進むことができない。まさかへつりがこんなに難しいとは思っていなかった。ここはS谷Lに先行してもらい、振り子トラバースで進むことができた。

その後は順調に遡行することができたが、杉谷Lからそういう簡単なところで、靴の置き場所、フリクションの利かせ方を練習しながら登るよとの指示を受ける。一步一步確かめるように歩みを進める。行動開始から5時間30分で、今日最大の難関「魚止の滝」に到着。この滝も見事なナメを形成しており圧巻であった。しかし直登することはできないため、右岸を高巻くため杉谷Lにルートワークしてもらい、お助け紐を使ってクリアした。

「魚止の滝」を超えると、釜の沢東侯のハイライトの一つ「千畳のナメ」が広がる。森の緑とナメ滝の美しい景観が広がり、疲れを忘れてナメ滝を楽しみながら遡行していく。入渓してから6時間30分、15時になったので、幕営地を探しながら遡行していく。「両門の滝」直前に最適な場所を見つけたのでタープを張って幕営地とする。まずは焚き火をするための薪集め。私は薪集めが初めてだったので、薪に最適な木々を選ぶことが大変なことを知る良い経験になった。

焚き火を囲み、各自が持ってきたお酒とおつまみを食べながら夕食ができるのを待つ。この日の夕食はスパゲッティ。たまねぎとベーコンを炒めて作った本格的なパスタをおいしく頂いた。準備していただいたT井さんに感謝。

夕食後も各自が持ってきたお酒を飲みながら、夕闇が迫るまで、山談義に花を咲かせ7時ごろ就寝。明日に備える。

翌日は5時に起床。朝食を摂ったり、タープを片づけたり、焚き火の後始末をしたりして、7時に遡行再開。ここで、焚き火の後始末はきっちり行うよとの説明を受けた。燃え残りはなるべく小さくまとめてその上に岩を置いて隠すように。自然の中を楽しむ沢登りだけに、なるべく自然に負担をかけないことが重要と学ぶことが出来た。



出発するとすぐに、この溪谷のハイライトの一つ「両門ノ滝」が現れた。

釜の沢の西股と東侯が見事なナメ滝となって合流する姿は圧巻としか言い用がない。両門ノ滝は左岸を高巻く。直登しているパーティもいたが、私達は安全第一で進む。その後は小滝とナメ滝の連続する様相となる、また源流に近づくにしたがって斜度もキツくなって来るが、沢靴で歩くのもだいぶ慣れてきて、水流の中をしっかりと歩けるようになった。

最後は水流も少なくなり長いナメ滝をクリアするとそこが源流。甲武信小屋のポンプ小屋になっていた。ありがたいことにポンプ小屋から稜線までは登山道がついているので、最後の藪こぎをしないで済んだ。行動開始から6時間で甲武信小屋に到着。ここで沢登りの装備を解除する。体は軽くなるがザックは重く肩に食い込む。S谷LとY本さんはここから15分で登れる甲武信ヶ岳に向かったが、私は体力の限界でパス、また次回の機会に登ろうと思う。下山路は徳ち



やん新道をとるが、3時間30分、延々と樹林帯の中、展望のない登山道で、時間が果てしなく長く感じられた。初めての1泊2日での沢登り、美しい淵・高巻き・ナメ滝・楽しい幕営とバラエティに富んだ山行を楽しむことができた。と同時に沢登りのテクニックを教えてくれたS谷L、美味しい料理を準備して頂いたT井さん、Y本さんに感謝です。 H本 記

## 7月21日(月) 金峰山 (個人山行)

L U木 会員外1名

オリスタ 5:30—登山口駐車場 7:50— 林道終点 8:50—最終水場 9:20—金峰山小屋 11:10  
11:30— 登山口駐車場 2:40—オリスタ 4:40

1日前に八柱山に行ったので疲れがとれないが明日以降と雨予報なので決行することにした。

朝の予報は晴れのち午後は雨 回り目平のマラ岩入口近くに止める。道路には車がいくつがあるが混んではいなかった。今日は花の写真もとるつもりで接写のデジカメをもってきた。

小川山には何度かきているがこの先は初めて。西俣沢にそって道路あるく。溪谷美を楽しむ。

釣りをやっている人が2名いた。水はきれいで魚がみえなかったが岩魚でもいるのだろうか。

20分くらいで20m位の岩場がありルートが3本あった。うまく逃げれば登れそうである。



釣鐘に似た花があったのでさっそくとる。林道終点に軽トラが一台あった。しばらくすると八丁平と金峰山への分岐につく。腐った車が一台ある。砂洗川の橋をわたり対岸から登山道になる。いよいよ尾根にとりつく。小さな沢に沿って登り最終水場に達する。沢を離れて中間点標識が2150mにある。ここからやや急登になる。

快調だった足が急に重くなってきたので休んでGPSの高さをみると2500mとありほぼ小屋と同じ高さであった。なんと木でさえぎら

れていたがすぐそこに小屋があった。ここから瑞牆山がよくみえる。つきでたオオヤスリ岩が顕著である。

いまごろワイドクラックをやっている人がいるんじゃないかと想像する。小屋に黒い大きな犬がいた。小屋にははいらずベンチで腰かけて昼飯とした。

時間が11時30分であり雲をみると黒くなっている。ここから頂上までは25分 往復1時間弱午後は予報雨。今回は2時間半の登りを3時間に増やした初めての山行だし満足したので残念ながらここで退却することにする。140歳コンビの無理は禁物である。







下り始めたらなぜかぞくぞくと登ってきて6人に会う。下りは膝に用心しながらゆっくりゆっくり。かえりは花を撮影したり溪谷の美しさを満喫しながらのんびりくだる。

岩場を良くみて登れるかチェックしたり大きな岩でボルダ―をやっていた若者たちに聞いて八幡沢の入口を確認した。相棒の話だと春の戻り雪というルートがあるらしい。

車に着いた途端に雨が急にすごい勢いで降ってきた。濡れる寸前でついている。頂上に行っていたらずぶぬれになっていただろう。なかなか良い判断であった。

長野に着いたらからからなので驚いた。 U木記



## 新刊紹介

**登山の哲学** 竹内洋岳著 (平成25年5月10日第一刷) NHK出版 740円

8000m峰14座を登頂した竹内氏の自伝 エベレストで突然脳梗塞をおこす。生死をさまようつぎにガッシャブルムⅡ峰で雪崩に会い背骨を折る。一年後にリベンジしてしまう。生まれたときに心臓に穴があいていると言われた。

身長180センチ 体重65キロ フリークライマーのような体格だが無酸素登山にはこのほうがいいらしい。一読の価値あり。

## 編集後記

通勤で、踏切を渡るのに草地となった急坂の路地を使っている。自転車ではその坂を押して歩いてもう一苦勞。夏は草藪と化し、冬はラッセルを強いられる。他の道はエラく遠回りになるのでこの道を使うしかない。そんな、人も滅多に通らない路地に、最近犬の〇〇が転がっていることが多くなった。ヒドイ時には毎日その落し物が増えていく有様で、踏まないように細心の注意が迫られる。いったい誰だよ、ちゃんと拾わない飼い主は！ …ふとある街の歩道にあった立看板を思い出す。「犬にフンをさせるな！」…これをそこにも立てたい。

／とっこ

先月から悩んでいた車をついに買い替えた。乗用車か軽かで悩み結局今までと同じような軽にし、新車か中古で悩み間を取って新古車にした。そして新しい車で走ってみると走りが軽しいし、燃費はいいしすごい快適！！そして今は新しい車についているECO採点機能にハマっています。毎日の通勤の度にアクセルの踏み方に気を使い高得点を狙っています。今のところ最高94点！いつか100点を目指したい。でもこの運転の仕方をしてると加速が非常にゆっくりだし、登り坂ではのろのろだし後続車にとってはいい迷惑かも？

／カタカナ

孫と一緒に野原にいき虫をとった。しかし名前がさっぱり分からないので佐久の虫博物館の方に聞いた。

シロテンハナムグリ オオヒラタシデムシ ナガメ ホソハリカメムシ ヤマトシジミ モンシロチョ イチモンジカメムシ ムシヒキアブ セマダラコガネ モンキチョウ 以上 10 匹  
モンシロチョウ以外は初めて聞く名前 やたら長くて覚えられそうもない。そろそろ夏休み シニアの仲間に教わった場所に探検する時期がきた。カブトムシとれるのかな。

(その二)最近糸瀬山に行ったら登山道の前方に小熊がみえた。生まれて初めて山で生の熊に会えた。感動したが次の瞬間母熊がいそうなのでヤバイと思い即退却した。尊敬する里山の神様の伊部さんも二回しか会ってないそうだ。なんか得した気分になった。下山途中で登山道を管理しているひとに偶然に会う。彼は母熊に襲われたことがありその時の傷をみせてくれた。誰か糸瀬山に行く人いないかな。できたら先に歩いてくれる人。

／ゾラ